

# 令和3年度 自己評価表

倉吉市立成徳小学校

<p>学校教育目標</p>	<p>「自学・自治・創造」の精神に満ち、心豊かでたくましく生きる人間づくりを目指す。 【本年度の教育目標】 ○主体的に考え、行動し、かかわりながら課題を解決する児童の育成</p>	<p>めざす子ども像</p>	<p>○自学 ・主体的に取り組み、かかわりながら学ぶ子 ・自分の考えを大切にし、課題解決のためにチャレンジする子 ・競い合い、励まし合い、支え合う子</p>	<p>○自治 ・暮らしの問題を主体的に解決する子 ・命を大切にし、感謝の気持ちを大切にすること ・よりよい生活習慣を身につけようとする子</p>	<p>○創造 ・他者と協力して新しい考えを生み出し、豊かに表現する子 ・自分の可能性を見いだそうとする子 ・自然を愛し、学校を愛し、郷土を愛する心を持つ子</p>
---------------	---	----------------	--	--	---

年 度 当 初				評価結果(2月)			
評価項目	現状	めざす姿	具体的方策	評価方法	経過・達成状況	評価	改善方法
主体的・対話的で深い学びを育てる	<p>長年にわたり一貫して自学・自治・創造の教育を推進してきたことにより、明るく、まじめに物事に取り組む児童が多い。しかし、進んで学習に取り組む態度や、友だちの考えと比べながら、自分の考えを表現したり関わったりする力は、さらに伸ばしていく必要がある。新学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにも、本校の取り組んできた「学び方学習」をもとに、授業改善を進めていく必要がある。</p>	○主体的に学ぶ子	<p>○課題意識を持たせる授業の工夫 ○「学び方学習」の見直しと実践 ○読書意欲と質を高める働きかけ</p>	<p>○学校評価アンケートの授業に関する設問への児童のプラス評価を70%以上にする。 ○学び方アンケートの学習中の設問(10.14.19)に対するプラス評価を70%以上にする。 ○年間読書量(高学年80冊、中、低学年100冊以上)の児童を全校の80%以上にする。</p>			
		○基礎的な知識・技能を身につけた子	<p>○単元や1時間の到達目標を明確にした指導と評価の工夫 ○授業研究後、共通理解した内容を全学年で実践する。 ○教科や授業内容に合わせ、効果的にICT機器を活用した授業を実践する。 (学習ソフト「すらら」 iPad)</p>	<p>○学び方アンケートの家庭学習に関する設問(21.22)へのプラス評価を、70%以上にする。 ○教師のふりかえりカードの実践率を80%以上にする。 ○学校評価アンケート「職員用アンケート」および「児童用アンケート」のICT機器の活用に関する設問へのプラス評価を70%以上にする。</p>			
		○関わり合いながら学び合う子	<p>○「対話」活動を活性化するための働きかけ ・発問の工夫と精選 ・対話を深める問い返し ・話し合い活動の充実</p>	<p>○学校評価アンケート「児童用アンケート」の表現や説明に関する設問に対するプラス評価を70%以上にする。 ○学び方アンケートの表現や対話に関する設問(9.11.13.15)へのプラス評価を70%以上にする。</p>			
豊かな心を育てる	<p>素直で明るい児童が多く、男女、学年の隔てなく、和気あいあいと関わり合う姿が多く見られる。一方で、相手や場面にふさわしい言葉遣いや行動についてはさらに指導する必要がある。そこで、相手のことを考えた言動・態度の日常化や、落ち着いた気持ちで生活する環境を自分たちで作出す姿を目指す必要がある。規律ある生活をするために、「くらしのめあて」5項目と関連づけ、児童会活動による自治的な活動を通して、他者や物を大切に、自分たちで自分たちの言動を律する自律心を育てたい。</p>	○相手や場面にふさわしい言葉遣いのできる子	<p>○学級の実態に応じた目標設定、反省の実施 ○全職員による生活場面を捉えた日々の指導(学習中、全体の場(公共の場)目上の人に対して) ・随時指導を大切にすると同時に、国語・道徳等の教科とも関連づけて、言葉遣いを扱った集中指導に重点的に取り組む。 ○「いいことみつけコーナー」の設置・活用を通して、児童が互いに認め合うことのできる環境をつくる。 ○集会活動等で、場に応じた言葉で活動できるように指導をする。</p>	<p>○児童・保護者による学校評価アンケート(7月、12月)により、該当項目(進んであいさつをしているか、言葉遣いに気をつけているか、友だちのよいところやがんばりを見つけて伝えているか)の肯定的評価を80%以上にする。 ○「くらしのめあて」の挨拶、言葉遣いの項目を、全学年の達成状況を80%以上にする。また、児童の自己評価、他者評価ともに80%以上にする。 ○「いいことみつけ」の掲示に2枚以上参加する児童を80%以上にする。</p>			
		○規律ある生活環境を作り出せる子	<p>○代表委員会等重点項目を決め、達成のための方策を学級で話し合い、取り組む。 ・各学級の課題や具体的な目標を考えさせ、実践する。 ○学期ごとに、児童と教師の「くらしのめあて」達成度についての自己評価アンケートを実施し、意識付け・評価する。 ○委員会からの呼びかけにより、あいさつ、そうじ、ろうか歩行の手本を示すなど自治的な意識付けを行う。</p>	<p>○児童・保護者による学校評価アンケート(7月、12月)により、該当項目(11,12)の肯定的評価を80%以上にする。 ○「くらしのめあて」の廊下歩行、掃除の項目を、全学年の達成状況を80%以上にする。また、児童の自己評価、他者評価ともに80%以上にする。</p>			
たくましい身体を育てる	<p>本校において、日々の外遊びやスポーツ少年団等の活動を通して日常的に運動をしている児童と、そうでない児童の運動量の差は大きく、体力の二極化は取り組むべき課題である。また、生涯を通して日常的に運動することは、健康で豊かな人生を送ることに繋がる。そのために、小学生のうちに進んで体を鍛えたり、基本的な生活習慣を身に付けようとする意識を高めていくことが必要である。また、健康な体を保つためには、バランスのとれた食事など、食に関する知識を得ることは欠かせない。食の大切さと感謝の思いを実感していく必要がある。</p>	○基本的な生活習慣を身につけ、進んで体を鍛えようとする子	<p>○打吹山クロスカントリーを通じた体づくり ○教科体育や体育の家庭学習に体力向上のための運動を取り入れる。 ○「健康調べ」を実施・集計して活用する。 ○生活習慣に関わる保健指導を行う。 ○なかよし班活動を中心に体力づくりに関わるイベントを企画・実施する。</p>	<p>○児童・保護者による学校評価アンケート(7月、12月)により、該当項目の肯定的評価を80%以上にする。 ○柔軟測定を2回実施し、児童の変容を見る。(6月、11月) ○「健康調べ」の各項目の達成状況を80%以上にする。 ○体力づくりに関わるアンケート(5月、2月)により、該当項目の肯定的評価を80%以上にする。</p>			
		○食を通して、健康と感謝の思いを実感できる子	<p>○学級での給食指導 ○成徳コミュニティセンターとの連携 ○栄養教諭による指導 ○道徳や各教科を通して指導したことや栄養教諭による指導があったことなどを学級通信やホームページに掲載し、家庭との連携を図る。 ○委員会活動による給食に関わるイベントを企画・実施する。</p>	<p>○児童・保護者による学校評価アンケート(7月、12月)により、該当項目の肯定的評価を80%以上にする。 ○給食委員会と連携を図りながら学期に1回完食アンケートを実施し、完食達成者数を80%以上にする。</p>			
創意ある教育活動の実践	<p>城下町倉吉の中心地として発展してきた歴史と打吹山や玉川などの豊かな自然素材を有する成徳地区にある本校は、地域の特色を生かした教育活動を工夫してきた。また、児童は、集合学習・交流学习で他校の友達と一緒に学習・活動することを楽しみにしている。以上のことより、「より主体的なふるさと「倉吉・成徳」の担い手を育成すること」、「地域教材・人材を活用した体験的な学習を充実させ、コミュニケーション能力を高めること」を創意ある教育活動の実践で目指す。</p>	○地域の人と関わりながら地域のことを進んで学び、これまで受け継いできたものを自ら伝えようとする子	<p>○地域の自然、歴史、文化、産業について、人材を活用した実践的活動の充実 ○本校独自の伝統の継承と主体的学習の推進(花運動、菖蒲相撲、打吹山クロスカントリー、みつぼし踊り、玉川清掃、倉吉イカ等) ○ふるさと学習年間計画の積極的な活用と改善 ○琴櫻体育賞、橋田科学賞の児童への周知と支援の充実</p>	<p>○地域教材・人材を活用した学習を各学年、年間3回以上実施する。 ○学校評価アンケートで「地域の学習が楽しい」と回答している児童を80%以上にする。 ○学校評価アンケートで「学校は、地域環境を活かした学習活動を充実させている」と回答している保護者を80%以上にする。 ○学校評価アンケートで「伝統的な教育活動が楽しい」と回答している児童を80%以上にする。 ○学校評価アンケートで「学校は、伝統的な教育活動を充実させている」と回答している保護者を80%以上にする。</p>			
		○地域に誇りと愛情をもち、他校の児童と進んで関わりながら学ぼうとする子	<p>○グループ活動での交流、集合学習後の感想交流の実施 ○児童の感想や活動の写真を掲示し、参観日や個人懇談の時に保護者に見てもらうことで、集合学習への理解を図る。 ○地域人材の積極的な活用 ○集合学習担当教員を中心とした他校との連絡・連携と集合学習・交流学习の計画的な実施</p>	<p>○学校評価アンケートで「他校との友達との学習は楽しい」と回答している児童を80%以上にする。 ○各学年年3回以上、他校との集合学習・交流学习を実施する。 ○集合学習の活動写真・感想の掲示 ○地域人材・ゲストティーチャーコーナーの掲示</p>			